

SDGsと中小企業の企業経営を考える

埼玉県西部地区 ビジネス交流セミナー

埼玉産業人クラブ西部支部は川越商工会議所、日刊工業新聞社と「ビジネス交流セミナー」を7月25日、埼玉真川越市で開催した。テーマは「中小企業のSDGs実践メリット」。基調講演、中小企業3社社長らによるプレゼンテーション、講師を含め4人でのパネル討論会を行った。会場には約100人が集まり、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を中小企業が実践した事例やメリット、課題などについて、それぞれの経営に生かすべく、熱心に耳を傾けていた。

中小企業のSDGs実践メリット

基調講演 日刊工業新聞社 編集委員 松木 喬



急いで大胆なことをやれば、新しいイノベーションのヒントが生まれる…と松木編集委員

SDGsには17のゴールと169のターゲットがある。日本語ではゴールは「分野」、ターゲットは「目標」に近い。国連が定めたが達成できなくてもベナルティーはない。今の国連のSDGsのロゴにはないが、一つ前のバージョンを見ると「世界を変えるための17の目標」と書いてある。SDGsとは何かと問われた時に「世界を変えるための17の目標」という説明が最も適切だと思う。

“世界を変える” 意気込みが重要

「SDGsに取り組んだが何も変わらなかった」という声を聞くが、世界を変えるくらいの気持ちで取り組まないと、何も変わらない。実際に世界を変えられる会社はグーグルやアップルなど一握りかもしれない。だが、世界を変える意気込みで取り組めば、会社の中でもいろいろな変化が出てくるのではないか。SDGsの「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で「誰一人取り残さない」という有名なフレーズがある。メディアでもよく取

り上げられるが、実はその前の部分に「緊急に必要な大胆かつ変革的な手段をとる」とある。緊急にやらないさい、大胆なことをやりなさいと、かなり厳しいことが書かれている。日本ではこの部分を読み飛ばしているが、本質的には急いで大胆なことをやれと、厳しいことを言っているのがSDGsだ。急いで大胆なことをやれば、新しいイノベーション（技術革新）のヒントが生まれる。2015年にSDGsのターゲットができて以来、ターゲットが目指したことが世の中で起きている。ターゲット12・3に食品廃棄物を半減させる目標があるが、19年10月に日本で食品ロス削減推進法が施行された。食べられるのに捨てられていた食品を減らそうという目標だが、SDGsに沿った法律が日本にできた事例といえる。ターゲットの12・5は廃棄物の発生を大幅に削減するという目標だが、

新しい出会い・広がる連携の輪

会場のホテルにはSDGsと企業経営を学ぶと約100人が集まった



これも今年4月、日本でプラスチック資源循環促進法が施行され、コンビニエンスストアなどで配っているストローやスプーンなどの使い捨てプラスチックを減らす義務を負った法律ができた。SDGsのターゲットを理解すると、次にどんな法律ができるか、どんな規制ができるかが予想できる。SDGsを理解すると次の展開やマーケットがわかってくる。環境省のホームページにSDGs活用ガイドがあつて無料でダウンロードできる。中小企業や地域の企業向けに活用法が書かれていて、非常にわかりやすい。

SDGsがなぜ企業に必要か、なぜ活用しなくてはいけないのか。まず会社を良くすることがある。従業員が不満を持っていると辞めてしまったら、不満を溜めたままだと不祥事を起すリスクがある。いい会社になれば従業員が会社のファンになって愛着を持って働いて定着率も上がる。社会貢献をビジネスを通してやると、取引先や消費者が徐々に会社のファンになってくれる。根強いファンになれば、会社が困った時に助けてくれ、長続きする会社、サステナブルな会社になる。

SDGsの取り組みは社会を良くするためにやっていると思うが、自分たちのビジネスとも関係している。SDGsに取り組まないといビジネスができなくなるかもしれない「自分ごと化」すると推進力になる。SDGsは「良いことの基準」という面がある。いい会社が世の中で評価してもらえる時代になった。応援してもらえらるチャンスも広がる。さらに新しい出会いや連携の機会が広がってくる。

主催者 あいさつ



埼玉産業人クラブ西部支部長（武州ガス社長）

原 敏成 氏

私たちが取り巻く環境は、本当に難しい状況ではないかと考えますが、企業で今できることを一つひとつ

新型コロナウイルス感染症拡大で埼玉産業人クラブ会員の皆さまも苦労されているのではないかとありますが、いつかは明ける日が来る、明けな

企業理念持ち行動・前進

本日は国連の持続可能な開発目標（SDGs）がテーマですが、これも各企業が理念を持って仕事をすることでSDGsの考え方に照らし合わせて、やるべきことは既にいろいろ行われていると思っています。そうしたこと本日は確認することも重要ですし、新しいこともセミナーで見つけていただければと考えています。このセミナーが残り多いものになるようお祈り申し上げて、私のあいさつと致します。

彩の国 中小企業3社のSDGs プレゼンテーション

カネパッケージ（入間市）



常務 高村 賢二氏

当社は生卵を高さ200センチから落としても割れない技術を使って、医療機器や分析機器など大事な製品を最終ユーザーまで届けることを企業価値として日々邁進している。梱包材の設計開発や製造販売などの梱包事業の他、物流倉庫事業、医療機器製造事業を行っており、グループ会社には三幸製作所などもある。海外拠点はベトナム、タイ、インドネシア、中国、香港、フィリピンがある。

医療機器は以前はプラスチックで梱包していたが、段ボール緩衝にすることで二酸化炭素（CO₂）の排出量を削減できた。また農業用ドローンの梱包では、以前はジュラルミンケースに入れていたが、オール段ボール

心にかけている。ハラスメントは当社の経営理念や「ヒーハリストバリュー」に反する。誰にでもストレスはあるが、慢性的にストレス反応が起きてしまうと働きがいはい下する。

ベアリングは摩擦をなくす機械要素部品。であるならば人に関する摩擦を減らす職場環境を作りたい。それがSDGsの目標につながる。

不安やストレスを感じたら「どうしよう」「思考ではなく「こうしよう」

思考に変える。ストレスをなくそうとするのではなく、うまく付き合うことがベスト。1人で悩まず信頼できる相談相手、または相談環境を作る。ハラスメント防止とメンタルヘルスの要は社長の決断と実行の本気度。経営トップの考えが企業風土に大きな影響を与える。義務感でもなく、同調でもなく、良くしたい、変えたいという気持ちから突き動かされる使命感。義務感ではなく使命感でやっていきたい。

シタラ興産（深谷市）



社長 設楽 竜也氏

当社は産業廃棄物の処理をする会社。30数年前に父が廃棄物処理工場を深谷市で建設した。2016年にロボットを導入。ロボットを活用したサンライズFUKAYA工場をオープンした。昨年は埼玉産業人クラブが主催する第17回埼玉ちゃんれんじ企業経営者表彰で埼玉県知事賞をいただいた。大変感謝している。

地域貢献として緑のトラスト基金へ寄付したり、コロナ禍で自粛している小学校に出向いてサッカーボールを寄贈したりしている。私債債も合計4回発行して手数料の一部を環境関連団体へ寄付している。CSR（企業の社会的責任）委員会も発足して外国人の積極雇用もしている。

今、取り組んでいるのはアジアへの寄付。去年のクリスマススイブに6歳の娘の誕生日を妻と娘の家族3人で祝った。幸せ

その後、寄付活動や外国人の積極雇用をなぜするのかということを社内浸透したくて、CSR委員会を発足した。社員貢献や地域の人々に溶け込んでこそシタラ興産なんだという思いをCSR委員会に託した。

最後に、かなえたい大きな夢がある。30年に当社は新規株式公開（IPO）を目指す。皆さまの知恵を拝借しながら、支援いただきながら、IPOへの大きな野望を抱いている。

ヒーハリスト（川越市）



社長 尾崎 浩太氏

国連の持続可能な開発目標（SDGs）はあくまで企業価値を上げる手段であって、目的と手段を履き違えてはいけない。体裁だけ合わせても本当の企業価値向上にはならない。SDGsのターゲット8「働きがいも経済成長も」に着目した。近年の組織の2大問題であるハラスメントとメンタルヘルスは、働く私たちのにとって大きな課題だ。

どんな時代や環境であろうと、企業規模や業種に関係なく、最も大切な経営資源は人。当社は「心・技・体」の三拍子そろった企業風土作りを

26年7月の完成予定で本社ビルと焼却発電施設の建設を計画している。このプロジェクトを「レガリア」と呼んでいる。発電した電気は地元に戻していく。いわゆる電気の地産地消を目指していく。

社会貢献 地域の人々に溶け込んでこそ

働きがいある職場づくり 「使命感」で挑む

フィリピンでマングローブ植林1200万本



埼玉県西部地区 ビジネス交流セミナー

—SDGsに取り組むメ
リットは。

尾崎社長 取り組む上で求めたい成果は、自社に誇りを持ってもらいたいということ。企業価値向上の実感がほしい。当社では感謝の気持ちを伝えるサンクスカードという取り組みを行っている。感謝されるより感謝することにウエイトを置いている。SDGsが経営者の自己満足であっていいない。社員が実感できないと意味がない。

設置社長 SDGsのために取り組んでいるのではなく、会社に必要なこと

パネル討論会

本業で省エネ関連重点
環境以外の視点に着目 設置氏

CO₂削減「見える化」 高村氏

を補っている結果が、SDGsにつながるかと考えている。社長からの発信が多かったが、今後は委員会主導で従業員に共有、浸透しながら会社全体で進めることが大事だと思っている。

高村常務 メリットはた

くさんある。取り組みを通じてさまざまな分野の人と出合えて刺激も受ける。メディアに取り上げられると、従業員の家族に知ってもらえる。そういう声を聞くと非常にうれしい。そうしたことも意識して情報発信している。

—SDGsに取り組む中で課題は。

設置社長 やりたいたいが私主導になって、やった結果を社員に知らせる形になってい

た。委員会も組織むメリットや課題などについて熱弁する3氏（左から尾崎氏、設置氏、高村氏）

したので会社主導で社会に役立つことを進め、結果を社内でも共有する。社員の家族も喜んで誇りが持てる活動に変化にさせていきたい。

尾崎社長 課題はやはり全社的な理解と浸透。普段はボトムアップでも、コロナ禍のような時はトップダウンも必要。ただ、なぜやるのかを説明しないと協力は得られない。政府に言われたから、SDGsを勧められたからやるのではなく、意義や意味を理解した上で主体的にやるのが大事だ。

—SDGsで他に取り組むみたいと考えている分野は。

尾崎社長 やはり省エネに関連する分野は力を入れている。次は目標の9「産業と技術革新の基盤をつくる」にウエイトを置いていく。本業で目標につなげたい。

設置社長 「貧困をなくそう」や「質の高い教育をみんなに」など。当社は環境に関連した仕事なので環境を掘り下げることはもちろん重要だが、それ以外の視点を持った会社になりた

いる。

高村常務 脱プラスチックなど梱包材を取り巻く環境は厳しいが、ピンチをチャンスに変えようと取り組んでいる。梱包を工夫することで二酸化炭素（CO₂）をどれだけ削減できるかを「見える化」して、見

積書とともに顧客に提示してメリットを提供しているところを進めている。

—SDGsの取り組みによって、世界は変わっていくか。

尾崎社長 「不易流行」を座右の銘にしている。どんな時代でも変えてはならないこと、時代や環境に合わせて変えていくことがある。今の原材料価格の高騰は、いずれ一段落するかもしれないが、一番の問題は人材不足。雇用を維持するためにハラスメントやメンタル不調を減らすことは、企業経営の持続のために必須であり、不易流行の不易だと思

う。

設置社長 当社のような社会の役に立つことに取り組むという会社が増えていく。SDGsに取り組むことで変わっていくというより、退化しないようにするということもある。まだ大

基調講演に続くパネルディスカッションでも熱心に聞き入る参加者の姿が見られた

主催者 あいさつ



川越商工会議所会頭

立原 雅夫氏

いるもので

最近の世界の地政学的リスクを見る

と、いったん収束したと思われた新型コロナ

あらゆる問題への対応準備を

ナ情勢も懸念されています。金融政策の転換や半導体、原材料、エネルギーの価格高騰に加えて、円安も進みました。価格転嫁が難しい中小企業には、一段と厳しい経済環境が待っています。経営者に求められているのは、あらゆる問題に対応できる準備だとも言われています。

基調講演やパネル討論

会を通じて、経営者の皆さまの連携や情報の共有など有意義な機会として、今後の経営に取り組まれることを期待します。



高村常務 マングローブの植林活動はコロナ禍で中断していた。これから再開する予定なので、興味のある方はぜひ参加をお待ちしたい。

高村常務 マングローブの植林活動はコロナ禍で中断していた。これから再開する予定なので、興味のある方はぜひ参加をお待ちしたい。

尾崎 浩太 氏
設置 竜也 氏
高村 賢二 氏

出席者

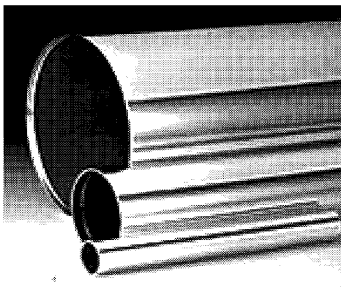
ヒーハイス社長
シタラ興産社長
カネパッケージ常務

（司会）日刊工業新聞社 編集委員 松木 喬

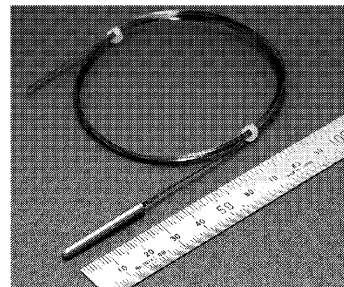
埼玉県西部地区

コロナ禍・勝ち残りへ
各社奮闘

それぞれの「強み」を生かす 彩の国の中小企業



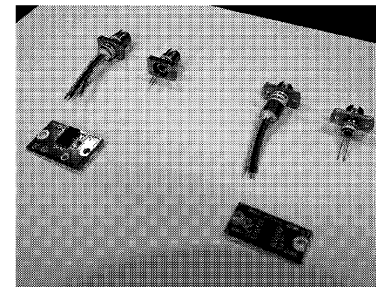
★日本伸管（新座市）アルミニウムの引き抜き加工技術をコアにパイプ材・部品、アルマイト処理を手がける。独自技術でコスト削減、高品質化を実現



★ネツシン（三芳町）半導体関連をはじめ、水素など新エネルギー関連のサプライチェーン（供給網）でも需要増が見込まれる温度センサー



★武州ガス（川越市）県内初「うなぎの陸上養殖事業」へ新規参入し、地産地消で地元貢献する事業を展開

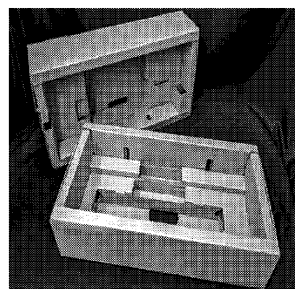


★七星科学情報通信（所沢市）光通信用モジュール「光デジタルリンクシリーズ」に欧州特定有書物質規制「RoHS2」対応の「FCI-200シリーズ」投入

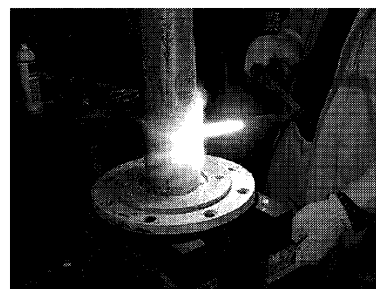
「アフターコロナ」「ウィズコロナ」と言われてから二年半。今もなお広がり続ける新型コロナウイルスや、円安・物価高・電気料金の引き上げなど先行きの見えない状況が続いており、全国の中小企業に多大な影響を及ぼしている。そんな厳しい状況の中、多様な産業が集積する彩の国・埼玉県西部地区では各社勝ち残りべく独自の製品や技術を開発するなど奮闘中。独自の「強み」を生かし、コロナ禍を乗り越えようとしている。



★曙金属工業（川越市）アルミニウムの表面処理工程で温度管理と薬液により、多様なカラーと模様を表現



★カネパッケージ（入間市）発泡スチロールの緩衝材を段ボールで代用、海外でマングローブを植林するなど、全社を挙げての環境汚染対策



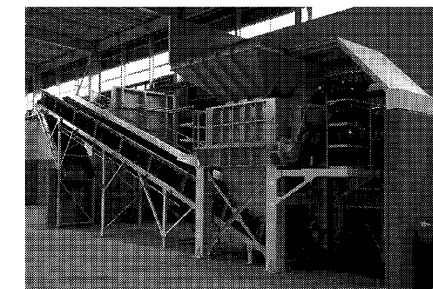
★アロイ技研（さいたま市岩槻区）ろう付加工のプロ集団。信頼性のある最適な接合技術で産業界に貢献する



★ヒーハイスト（川越市）省力化、自動化に貢献する直動ベアリング及びコンマ一秒の速さを実現するレース部品の独自技術が強みとする



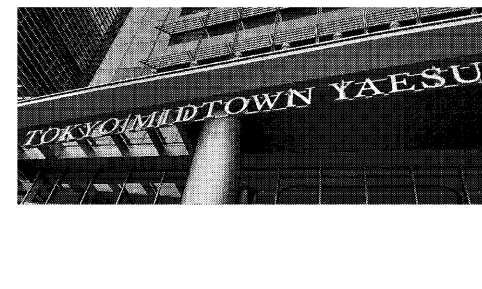
★バンガードシステムズ（所沢市）コア技術であるモーター制御技術により、多様な分野で用途を開拓



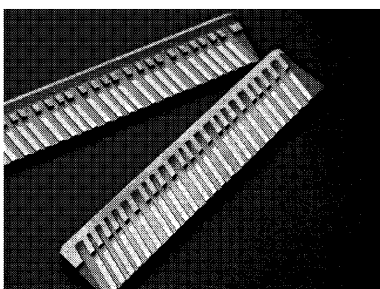
★タジリ（深谷市）100%に近い内製化率でコスト、納期の両面で顧客の要望に応える環境機器・プラント



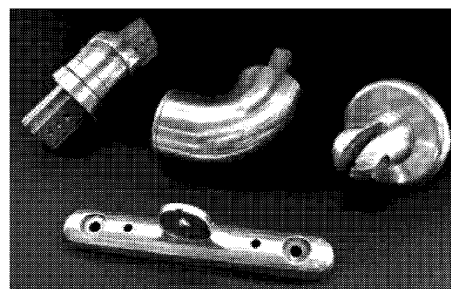
★久保井塗装（狭山市）プラスチック製小物部品の塗着効率を85〜90%に引き上げる「超高塗着塗装システム」の開発推進



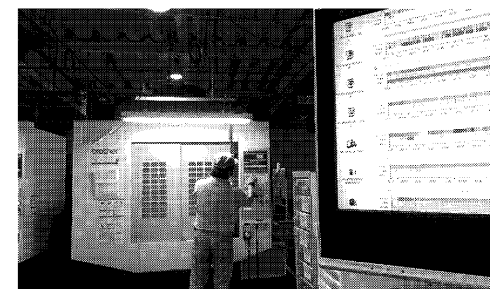
★野火止製作所（新座市）東京ミッドタウン八重洲の正面サインや、他大手施設の案内表示板等の製作施工を任される技術力を持つ看板（サイン）製造事業



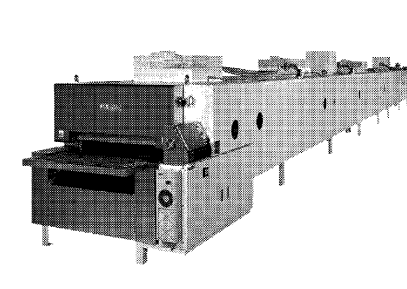
★日東精密工業（寄居町）コンプレッサの性能を左右する溝の切削工具であり、高い平滑性と寸法精度の両立が求められる「特殊ブローチ」



★モチタ製作所（小川町）ダイカスト製品の研磨仕上げから化成処理、塗装まで一貫して手がける塗装メーカー



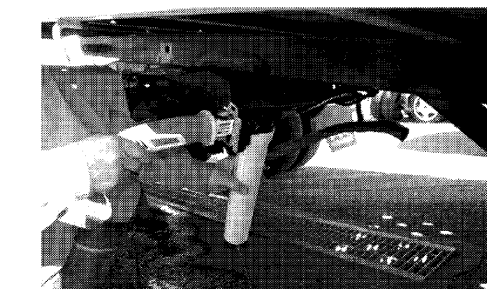
★東立製作所（日高市）樹脂加工でのIoT（モノのインターネット）活用で工作機械の稼働状態を見える化



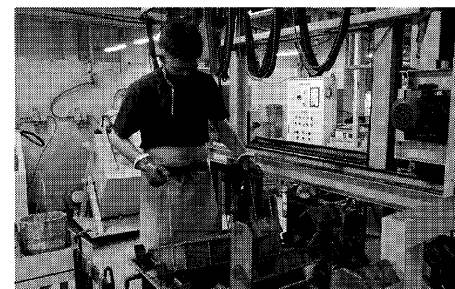
★マスダック（所沢市）過熱蒸気の効果で、焼き菓子などの品質向上や生産効率を高める「ヒートプラス」搭載オープン



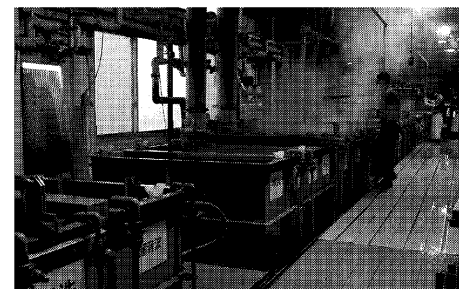
★ワックデータサービス（富士見市）社員幸福度の向上のため、幸せ経営や健康経営の浸透、働く幸せを満たす新人事制度の導入などに取り組んでいる



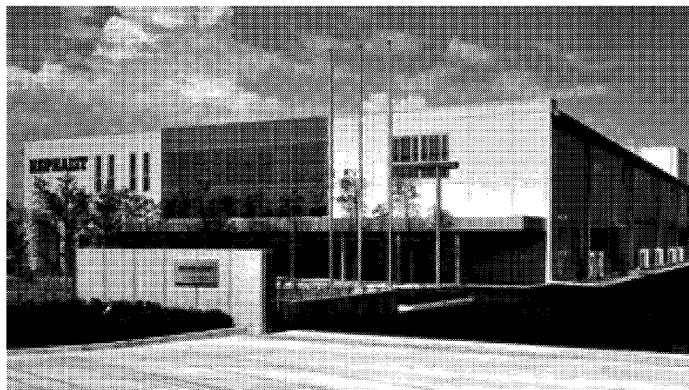
★GNS（坂戸市）自動車や建設機械などの機械部分に潤滑油を注入する「グリースポンプ」などを製造する



★高松電鍍工業（狭山市）「めっき技能士」など社内資格取得を促し、従業員の能力の発揮に力を注いでいる

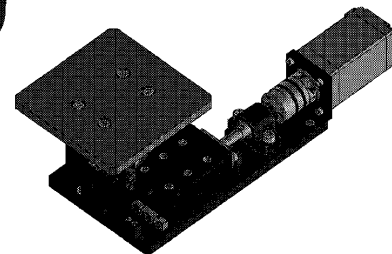
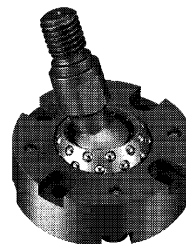
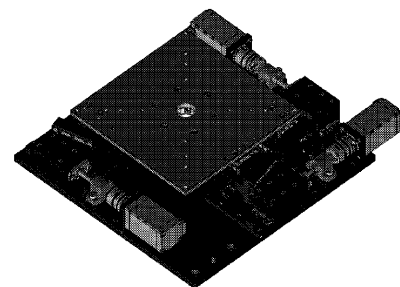


★エムエフケイ（日高市）独自のアルマイト処理「MFコートシリーズ」はクラックや表面溶解を極力抑えた



川越ものづくりブランド
KOEDO E-PRO 認定会社

省力化
自動化



ヒーハイトはモノづくりを通して、
持続可能な社会を目指します

エネルギーを無駄にすることなく、進む力に変える機械部品。

究極のなめらかさを追求する私たちの直線運動機構の研究がいま、

世界の省エネルギー化を推進しようとしています。

スムーズに前へ、そして未来へ——。

ヒーハイトは、人と機械の新しい関係を育みSDGsが目指すゴールへ向かいます。

HEPHAIST

それは価値を創造する個性ある集団です

小径リニアボールプッシュ世界トップメーカー
ヒーハイト株式会社

<http://www.hephaist.co.jp/>

本社・埼玉工場 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1
TEL 049-273-7000 FAX 049-273-7001

秋田工場 〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山字下田454
TEL 018-828-0111 FAX 018-828-1192